

# 読書

一九〇八(明治四十二)年、蝶蛾がもつ鱗粉そのものを利用したこの方法ならば、その微妙な色合いや光沢、斑紋に至るまでを本物そのままに現出させることができ。実際、この標本には、生きた蝶をそのまま封じ込めてしまったかの

鱗粉転写法とは糊(のり)を使用して蝶や蛾の羽根から直接鱗粉を紙な

## 県図書館に行こう

こんな情報<sup>①</sup>が待っている。

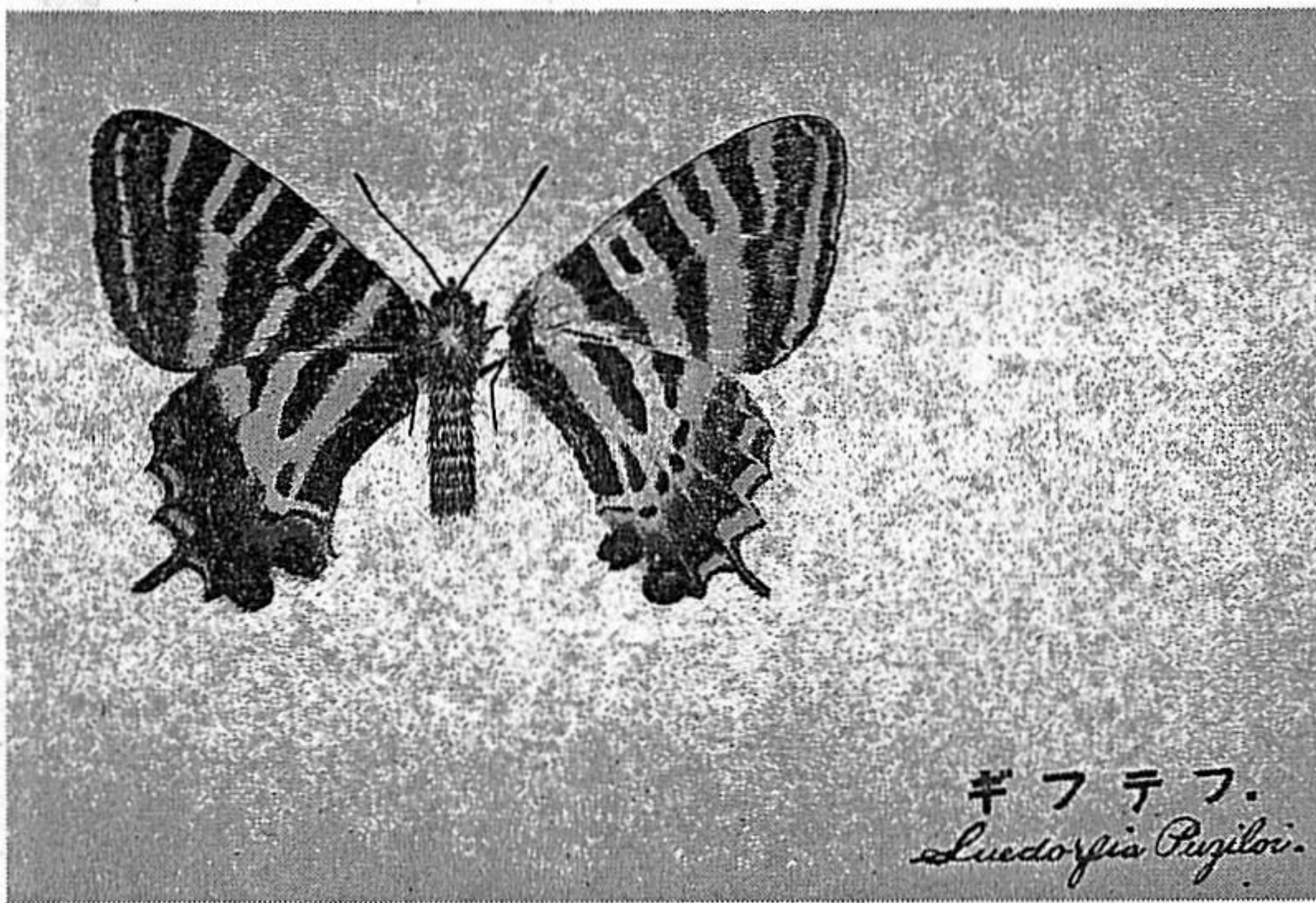
どこに写し取る方法。この標本はまず鱗粉転写を行なった後、画工の手により胴体部分を補筆し、完成させたものである。

蝶蛾の羽を本物そっくりに描き出すことは、高度な技術を持つ画家にと

ってさえ難しい作業で

## 残酷さと表裏の「美」

蝶蛾鱗粉転写標本



ギフテフ。  
*Luedorfia Puziloi.*

ギフテフの鱗粉転写標本

鱗粉転写法は十八世紀にフランスで既に実践された研究は特許を取得、新たに工芸部を設けてさらなる研究に着手した。そうしてできあがったのがこの標本集である。

術であり、開発に成功した研究は特許を取得、新たに工芸部を設けてさらなる研究に着手した。そうしてできあがったのがこの標本集である。破損しやすい実物標本に比べ、鱗粉転写による標本は保存性の面でも優れている。製作から一世紀近くが経過した今日でも、その色彩の美しさはあせることなく保たれ、昆虫標本というよりも美術品に近い趣がある。

また、名和昆虫研究所は鱗粉転写の方法を広く一般に公開し、必要な器具を提供するなどして普及に努めた。子どもにも理解できるように平易な文章で説明したリーフレットも作成している。